

011	From Editor
013	表紙の時計／ルイ・ヴィトン、タンブールオートマティック
014	Editor's Choice!
018	世界は時計で回っている。
020	ジャガー・ルクルト、ポラリス・クロノグラフ
022	ニュアンスがあるグラデーション文字盤で表現されたエレガンス ルイ・モネ、ジャパン ロケット
024	ベキエ、ロワイヤル サフィール
026	ローマン・ゴティエ、C by ローマン・ゴティエ タン エディション プレスレット
029	「進化する伝統」を掲げて着実な歩み続けるマイクロメゾン パルミジャーニ・フルリエ
039	カール F. ブヘラ
047	ペリフェラル技術を軸に新戦略を打ち出す カール F. ブヘラは2023年3月に「時を探し求めて」をモットーに新しい成長戦略を発表した。自社開発のペリフェラル技術を中心に、コレクションを3つに絞り、ビジネスも開始する、という高級路線である。この戦略の概要を取り上げる。
076	2023年ブランド別新作情報 パート3 オリジナリティを主張する新作の競演 2023年夏にジュネーブで開催されたジュネーブ・ウォッチ・デイズ、上海でのウォッチズ&ワンダーズで披露された新作をご紹介。併せて日本市場でも展開を開始したWPHHの新作および国産ブランドの2023年後期の新作をみてみたい。 カシオ、オシアナスOCWS6000JC、OCWS7000C カシオが考える「エレガンス」を柱に進化を遂げるオシアナス

080	H・モーザー & MB&F ストリームライナー・パンダモニウム
082	オーデマピゲ CODE 11・59 バイオーデマピゲ
083	ユリス・ナルダン マリントルピュールムーンフェイズアベンチュリン、ダイバー・スターリーナイト
084	タグ・ホイヤー タグ・ホイヤー カレラ クロノグラフ × チームイクザワ by バンフォード
085	オメガ シーマスター プラネットオーシャン ディープブラック ETNZ エディション
086	パネライ ネイビーシールズ コレクション
088	チューダー ベラゴス FXD
089	ブランパン フィフティファズムス 70周年記念「Act 3」
090	ブライトリング ナビタイマー オートマチック 36、ナビタイマー 32
092	ブライトリング アベンジャール
094	ボール・ウォッチ エンジニア ハイドロカーボン EOD
095	ハミルトン カーキフィールド エクスペディション 37mm
096	ルイ・エラル エクセレンス レギュレーター 「ダストトゥードン」ルイ・エラル × コンスタンチン・チャイキン
097	レゼルボワール ブラック スパロウ
098	クロノスイス レギュレーター マニファクチュール 日本限定
099	腕時計新着情報
101	銀座日新堂 銀座で時計を商い75年。この時間の積み重ねを糧に新たな日々をつくる
102	GPHG 新鋭から伝統ブランド、ベテラン独立時計師まで、喜びに沸いた夜
104	エス・パストカミネ 高級機械式時計の文化に触れ、語り合うシックなサロンが誕生
105	スイスの時計産業と日本を繋ぐスイス時計協会(FH)第10回
106-112	インフォメーション / 問い合わせリスト / 次号予告

ルイ・モネ ジヤパン ロケット

宇宙への夢を時計に託し、宇宙の歴史を時計で語る

ルイ・モネの時計製作のテーマのひとつが「宇宙」である。これはかつての偉大な時計師ルイ・モネが天文学者であり、今日のルイ・モネを創業したジャン＝マリー・シャラー氏も宇宙に強い興味を抱いていることの表れでもある。最新作の「ジヤパン ロケット」をみてみたい。



「ジヤパン ロケット」に先駆けて2023年8月に発売された「ムーン ギベオン」。これらふたつのモデルはデザインを同じくし、ジャン＝マリー・シャラー氏によって考案された。直径45.4mm×厚さ14.8mmのDLC加工のステンレス・スチール・ケースに自動巻きのCal.LM45(22石、毎時2万8800振動、パワーリザーブ約48時間)を搭載する。文字盤の中央にミッドナイト・ブルーに着色したギベオン隕石、3時位置にはブルーのアルミニウム製カプセルに宝石職人ダニエル・ハース氏によって造形された月の隕石をセットする。サファイア・クリスタル・バック。5気圧防水。価格396万円。限定20個。



子どもの頃、夜空に光る星を眺めながら「宇宙ってどうなっているのだろう」と思いを巡らしていた彼は、やがて自らの時計ブランドを創設し、宇宙を時計製作のテーマとして選んだ。時間は天体の動きから人間が導き出したものであり、天文好きの少年が時計の世界に入ったとしても不思議はない。

2004年にルイ・モネを創業したジャン＝マリー・シャラー氏はこんな少年だったのだろう。ルイ・モネは19世紀の時計師ルイ・モネへのオマージュとして誕生したブランドである。ルイ・モネもまた宇宙に深い興味を持っていた。彼は1816年に天体を観測するために毎時21万6000振動という高振動のクロノグラフを開発。また1848年には『Traité d'Horlogerie』(時計製造の論文)を出版し、19世紀には時計のバイブルとして高く評価された。アブラアン・ルイ・ブレゲとも親交が深かったが、いつしかその存在は歴史の中に埋もれてしまった。

このかつての偉大な時計師に光を当て

たのが、ジャン＝マリー・シャラー氏であった。彼はルイ・モネが製作したクロノグラフをオークションで入手し、この時計は2016年には世界初のクロノグラフ、2020年には高振動時計としてギネス世界記録として登録され、歴史的偉業が再び注目を浴びることとなった。

今日のルイ・モネは宇宙や宇宙開発をテーマに隕石を使った「コスミック・アート」と、機械式時計の可能性を追求した「メカニカル・ワンダーズ」のふたつのコレクションを展開する。12月には「コスミック・アート」から「ジヤパン ロケット」が日本限定で発売された。特徴のひとつは文字盤の3時位置にデザインされた日の丸。これは日本が2009年から2020年にわたってISS(国際宇宙ステーション)に物資を運ぶ補給機「こうのとり」を打ち上げるために運用したH-II Bロケットの先端に取り付けられたフェアリングのパーツを下に置き、その上に赤く加工した丸い月の隕石を組み合わせたものだ。シャラー氏は宇宙航空

ペキニエ ヶロワイヤル サファイール ペルラージュ、ロワイヤル サファイール ダウンホワイト、

フレンチ・マニユファクチュールの誇りと意地

ペキニエはフランスで唯一の自社開発ムーブメントをもつ時計メーカーとして歩みを進めている。現在、独自の機構を盛り込んだ自動巻きのカリブルロワイヤルをはじめ3機種のキャリバーを揃える。今秋には日本限定モデルも初めてお目見えし、活気を帯びている。



「ロワイヤル サファイール ペルラージュ」。直径42.0mm×厚さ12.3mmのステンレス・スチール・ケースに自動巻きのCal.EPM01 (39石、毎時2万1600振動、パワーリザーブ約88時間)を搭載する。サファイア・クリスタル・バック。10気圧防水。ライトベージュのアリゲーター・ストラップ。価格231万円。日本限定20個。

左ページの「ロワイヤル サファイール ナイトブラック」(右)はブラックPVDケース、「ロワイヤル サファイール ダウンホワイト」(左)はサテン仕上げのステンレス・スチール・ケースにCal.EPM01を搭載。共に5気圧防水。価格は右が220万円。年間製造20個。左は209万円。年間製造20個。



1973年にエミール・ペキニエ氏がフランスのモルトーに創業したペキニエは今年で50周年を迎えた。モルトーはスイスとの国境に程近いフランス・ジュラに位置し、かつては時計産業が栄えた町だった。クォーツ・ショックが時計業界に大きな打撃を及ぼす直前に誕生したペキニエは、周辺のブランドが姿を消すなかでデザインに注力し、存続を果たした。やがて2004年にペキニエ氏が経営権を時計業界で長年の経験をもつデイデイエ・ライボンゲット氏に譲り、ペキニエは「フレンチ・マニユファクチュールの復活」に向けたプロジェクトを開始した。2008年にはオート・オルロジュリー研究所を開設し、自社ムーブメントの開発を進めた。その第一号である自動巻きの「カリブルロワイヤル」(Cal. EPM01)が完成したのは2011年であり、名実共にフレンチ・マニユファクチュールとして新たな扉を開けた。このことが評価され、2014年にはフラン

ス経済産業雇用省から「Entreprise du Patrimoine Vivant (EPV)」(フランス無形文化財企業)の認定を受けている。

2018年に手巻きの「カリブルロワイヤルマニユアル」(Cal. EPM02)、2021年にモジュール搭載のベース・ムーブメントとなる3針自動巻きの「カリブルイニシャル」(Cal. EPM03)が登場し、マニユファクチュールとして歩を進めてきた。一方、経営体制は変遷を重ねたが、2021年にはフランスの起業家を支援する家族経営の投資会社エノウイ (Enowe) 社の傘下となり、ロゴの書体やマニユファクチュール・モデルの国際保証期間を2年から5年に延長するなどの変更が行われている。そして今年初めてウォッチズ&ワンダーズジュネーブで新作をお披露目した。

今年10月、日本市場限定の「ロワイヤル サファイール ペルラージュ」が登場した。自動巻きのカリブルロワイヤル (Cal. EPM01) を搭載する。このムーブメン

パルミジャーニ・フルリエ

発展の背景を探る

パルミジャーニ・フルリエは2021年1月にCEOに就任したガイド・テレーニ氏の陣頭指揮の下、快進撃を続けている。発展の原動力となったトロンダ P.F.はバリエーションを広げ、着実に歩を進めている。今日のパルミジャーニ・フルリエをテレーニ氏のインタビューを通して見てみたい。





カール F. ブヘラ

テクノロジー

ペリフェラル技術を軸に新戦略を打ち出す

2023年3月、カール F. ブヘラは「時を探し求めて」をモットーに今後の時計製造に関する新戦略を打ち出した。これは「高級化」を前提としたものであり、自社開発のペリフェラル・テクノロジーを軸にコレクションの絞り込みやビスポーク・サービスの展開などが含まれる。創業から135周年を迎え、次なる発展に向けての基礎固めということができると共に新戦略をみてみたい。

2023年ブランド別新作情報 パート3—ジュネーブ・ウォッチ・デイズ、
ウォッチズ&ワンダーズ 上海、日本メーカー

オリジナリティを

主張する新作の競演

2023年8月29日から同9月2日まで39ブランドが参加して
開催されたジュネーブ・ウォッチ・デイズ、9月13日から同17日まで
14ブランドが出展した第3回ウォッチズ&ワンダーズ 上海は
共に一般消費者の来場で賑わいを見せた。これらの展示会のほか
フランクミュラー、クストス、国産メーカーの新作の概要をご紹介します。



上は“ジュネーブ・ウォッチ・デイズ”のパビリオン。4日間に約8000人の一般来場者が訪れた。“ウォッチズ&ワンダーズ 上海”では一般公開した週末に約5000人が参加した。



カシオオシアナスマンタ、OCW-S6000JC、OCW-S7000C

カシオが考える「エレガンス」を柱に進化を遂げるオシアナス

ギリシャ神話の海の神、オケアナスから名付けられ、2004年にデビューした、オシアナス。クールなブルーがブランド・カラーとして定着した。ブルー系のグラデーションを特徴とする最新作は、創業以来の「発明の精神」が導き出した技術進化の結果である。



オシアナス マンタ「OCW-S6000JC」。ベゼルは約3mm以上の厚さのサファイア・クリスタルに24面のファセットと宝石研磨の技術によって細かなカットを施し、さらにレーザー加工でヘアライン状のパターンが刻まれた。その上に、ライトブルーからブルーのグラデーション蒸着とスパッタリング処理で着色されている。

縦47.0mm×横42.5mm×厚さ9.2mmのDLC加工のチタニウム製のケースとプレスレットに世界6局の標準電波受信機能を持つ、タフソーラー（ソーラー充電システム）クォーツとモバイル・リンク機能を搭載。ピンクゴールド・カラーをアクセントとする。10気圧防水。価格40万7000円。世界限定350個。

カシオの時計の面白さ、それはエレクトロニクス技術をいかに生かすかが発想の原点にあり、機械式時計の伝統を受け継ぐ他の時計メーカーとはアプローチを全く異にする点にある。計算機メーカーを出自とし、創業者のひとりであり発明家の榎尾俊雄（1925-2012）の「0から1を生み出す」をモットーとした

哲学が現在も息づいている。開発者やデザイナーたちは自由な発想と、それを具現化するための試行錯誤が許される環境のなかで、「今までにない製品」を市場に送り出すことに力を注いでいる。今日では「カラー、マテリアル、フィニッシュ」を開発の重点に置き、新製品発表の度に驚きを与えてくれる時計が登場する。

カシオの時計コレクションのひとつの柱である、オシアナスは2024年に誕生20周年を迎える。オシアナスはタフな腕時計の代名詞となった「Gショック」とは対極をなすものとして2004年に登場した。そして「エレガンス・テクノロジー」をコンセプトとして、カシオがもつエレクトロニクス技術を駆使した、スーツにも似合うアナログ・クォーツ・ウォッチの開発が進められてきた。2004年はカシオ初の腕時計「カシオトロン」の発売から30年を経た年であり、「Gショック」誕生から21年を経ていた。腕時計市場参入の後発であったカシオはまず低価格帯の製品で市場を攻め、1980年代には多種多様な多

機能デジタル・ウォッチを次々と生み出した。1990年代後期になるとGショックが大ブームを巻き起こしたが、新たな成長を目指して誕生したのがアナログ・クォーツの「オシアナス」だった。そして世界初のフルメタル・クロノグラフ電波ソーラーの「OCW-500」がデビューした。

2008年には世界6局の標準電波を受信する「マルチバンド6」「ムーブメント自体の耐衝撃性を向上させた」「ハイブリッドマウント構造」「針のずれを自動的に補正する」「自動針位置補正」、光を動力にかえ、強負荷のかかる各種機能を安定駆動させる「タフソーラー」を備えた「タフムーブメント」が誕生。今日のオシアナスはモバイル・リンク機能も加わり、タフムーブメントと共に標準仕様である。

こうして機能面の基礎が築かれる一方、エレガンスの表現の開発にも力が注がれてきた。ここに掲載した2モデルはその最新形であり、グラデーションと複雑なカットリングによって「都会の光を映す海の煌めき」が表現された。オシアナス

ワールド・ムック1312
WORLD WRIST WATCH

KESAHARU IMAI
Publisher

TOMOKO KAYAMA
Editor in Chief

KAZUO TSUBOI
Advertising Director

SHUNSUKE OGAWA
Production Director

HIROSHI SASAGAWA
Circulation Manager

DTP
BASE

Cover Photo/
Takenori Aoki (WPP)

●本誌に掲載されている価格は
令和5年11月30日現在の調べによるものです。
本文中の価格は消費税(10%)込みの総額表示です。
© WORLD PHOTO PRESS 2024

【次号予告】

独立系時計師を支援するルイ・ヴィトンの新たな試み

ルイ・ヴィトンは独立系のウォッチ・メーカーとの共同製作という試みを開始し、その第一弾としてアトリエ・アクリヴィアのレジエップ・レジエビ氏とのコラボレーション・ウォッチ「LVR R・01 クロノグラフ・ア・ソヌリ」を発表。若い独立時計師の支援を行うルイ・ヴィトンの背景を探ります。

グラスヒュッテ・オリジナル

ドイツ高級時計のクラシカルエレガンスを体現する「セネタ」コレクションの魅力

2023年終盤に発表された新作を通して、グラスヒュッテ・オリジナルのもつ技術力とタイムレスなデザインが融合した「セネタ」の魅力をみていきます。

独創性の個性を根底に次なる発展を目指す「オリエントスター」

オリエントスターはグラデーションのMOP文字盤や文字盤からテンプが見えるスケルトンなどの過去からの特徴を生かす一方、日本の時計業界の中でいち早くシリシウム製ガングリ車を製造するなど新たな動きが注目されます。オリエントスターの「現在」を取材します。

「世界の腕時計」第159号は2024年3月8日発売予定です。

世界の腕時計 定期購読のご案内

毎号、送料無料でお届けします!

お近くに書店のない方、毎号確実に入手したい方
便利な定期購読を是非ご利用ください。
特別定価アップ分、および送料はサービスいたします。

【年間購読料】

1年間(年4冊) **7,200円(税込)**
(3月、6月、9月、12月・8日発売予定)



【お申し込み方法】

フリーダイヤル 富士山 富士山

- お電話で(年中無休24時間受付) **0120-223-223**
- インターネットから <http://fujisan.co.jp/sekainoudedokei>
- QRコードから 上記QRコードからアクセスして下さい。

【お問い合わせ】

富士山マガジサービスカスタマーセンター
パソコンサイト: <http://fujisan.co.jp/cs>
メールの場合: cs@fujisan.co.jp
に、お問い合わせください。

■注意事項

- 定期購読の契約は、富士山マガジサービスとの契約となります。
- お支払いのタイミングによっては、ご希望の開始号が後ろにずれる場合がございます。
- 地域によっては、発売日より商品到着が若干遅れる場合がありますので予めご了承下さい。
- 定期購読は原則として途中解約はできませんので予めご了承下さい。

編集の都合上、内容が一部変更となる場合もありますので、ご了承ください。

ワールドフォトプレス総合サイト <https://www.monomagazine.com>

WORLD M O O K

ワールド・ムック1312

世界の腕時計

No.158

令和6年1月15日発行

発行人……………今井今朝春
編集人……………香山知子
発行所……………株式会社ワールドフォトプレス
〒166-0004東京都杉並区阿佐谷南1-12-1
アズ阿佐ヶ谷
編集部……………☎03-6383-2319 FAX.03-6383-2583
メディアビジネス部
……………☎03-5929-7682 FAX.03-6304-9443
販売部……………☎03-6383-2390 FAX.03-6383-2574
印刷所……………大日本印刷株式会社

- 造本には十分注意しておりますが、万一、落丁・乱丁などの不良品がありましたら
小社・販売部宛てにお送りください。送料小社負担にてお取替えいたします。
- 本誌掲載記事の無断転載・複製・転写を禁じます。